

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部 臨床工学科

名前 清水 久恵

作成日 2024年2月26日

【責任】

保健医療学部臨床工学科に所属している。学部科目として、医用機器安全管理学、基礎電気工学、電気工学演習、生体計測装置学、生体機能代行装置学、物性工学、臨床医学総論、医用治療機器学実習、医用機器安全管理学実習、臨床工学総合演習、臨床実習、卒業研究、大学院科目として、研究開発基盤研究(博士課程)、医用安全管理学特論(修士課程)を担当し、ゼミ生の研究支援、大学院生の研究指導などの教育・研究活動を行っている。課外活動として茶道部の顧問をしている。

【理念】

臨床工学技士国家試験受験者に対し、全員合格を目指している。学生達には国試合格後、医療機関や企業へ就職し、豊富な知識と技術を持つ臨床工学技士として活躍できる人材になってほしい。また国家試験を受験しない学生に対しては、医療系にかかわらず卒業後の進路に対し、大学で得た専門以外の知識を含めて活躍してもらいたい。臨床工学科のディプロマ・ポリシー(1. コミュニケーション力 2. 課題を発見し、問題を解決する力 3. 自らを律し、学び続ける力 4. 他者と協力して目的を達成する力 5. 専門的知識・技能を習得し、実践する力 6. 総合力)にもあるように、基礎知識を確実に身につけ、専門知識やこれまで獲得した能力を活用してもらい、コミュニケーションを取りながら、社会に貢献できる教育をしていきたい。大学院教育も学部と同様であるが、さらに目標達成のための計画を立案・遂行できる能力を磨いてもらいたい。

【方針・方法】

臨床工学技士は、医療現場に欠かせない数々の医療機器操作や医療システムの管理を行う。医療機器の専門知識とコミュニケーション能力を備えた臨床工学技士を養成するためには、医学・工学両面の知識を修得しなければならない。そのためには、専門知識だけではなくその基礎となる知識も勉強しなければならない。さらに専門知識を深く学ぶため大学院に進学し、目標達成のための計画を立案・遂行できる能力を修得し、医療機器の特性や場面に応じた現象を科学的に探究し、実践するための高度な専門的知識と専門応用能力を身に付けるようにする。

[方針1] 基礎知識を確実に身につける

方法1 授業の進捗状況に合わせて小テストを毎回行う

方法2 授業が7、8回終了した後、中間テストを行い基礎知識が身に付いたか確認する

方法3 演習は、ME2種や国試問題を解答してもらう

[方針2] 臨床実習のための練習

方法1 座学は、ノートを取らせる(臨床施設実習には、実習に必要な4大項目について事前学習したノートを用意しなければならないため)

方法2 座学に関して、定期試験後、ノートを回収して、板書の取り方、復習度合い等のチェックをする(ノートの記載方法は、初回のガイダンスで説明している)

方法3 臨床施設へアポイントメントを取るため、電話のかけ方や挨拶に行った際の挨拶の仕方等の練習をする

[方針3] 学生とのコミュニケーション

方法1 座学出欠確認は、座席表の氏名を確認しながら出欠をとる

方法2 学生が板書を書き写している最中、教室内を回って授業の理解度等を確認するなどコミュニケーションをとる

方法3 大学院生、卒論生には、研究計画を立案してもらい、アドバイスをする

【成果・評価】

- ・授業改善のためのアンケートを基に、学生の満足度を確認し、適時コメントを出した。
- ・国家試験合格者が、増加(2022年度合格率：本学 96.2% 全国 85.4%)した。
- ・就職活動について、できるだけ希望先に就職できればいいが、場所等にこだわると困難である。そこで、学生とのコミュニケーションを密に取って、将来像も含めて話し合い納得してもらえる就職先を紹介している。
- ・就職先(病院、企業含めて)は、これまでの学科の努力により(もちろん学生本人の努力もあるが)採用してもらえる所が増えてきている。
- ・大学院生は学会発表・論文投稿を活発に行っている(2022年度全国大会：7件 支部大会：2件)

【目標】

短期目標として、講義は授業案を作成し、中間テスト後や期末テスト後に改善したい。

大学院生は、引き続き学会発表を活発に行ってもらい、そのサポートをしたい。

長期目標としては、国家試験合格 100%を目指し、指導していきたい。

過去に受賞されたように学会等で表彰されるような研究内容を公表したい。

部活動は、大学祭等で地道に活動をしていきたい。